

2018年 μ TAS 国際会議 事後報告書

はじめに

2018年11月11日から15日にかけて、台湾高雄市において行われた2018年 μ TAS国際会議(The 22nd International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences)について報告する。報告者は、初日に自身のポスター発表を行い、以後の期間では他の研究者の発表を聴き、議論に加わって交流を行った。本報告では、会議の概要と報告者の発表に関して記載する。

会議概要

μ TAS国際会議は、毎年秋に開催されるCBMS(The Chemical and Biological Microsystems Society)が主催する国際学会である。会議では、半導体集積回路の作製に用いられる微細加工技術を利用してマイクロオーダーの反応場・流路をチップデバイス上に作製し、多機能な化学反応装置の作製、高感度な生化学分析を可能にするmicroTAS (micro-Total Analysis Systems) 技術に関する研究成果、またはこの技術を応用した生化学をはじめとして薬学、医学、工学における研究成果についての発表と議論を全世界から参加者が集まり行う。採択率は口頭発表、ポスター発表合わせて約70%であり、本学会はmicroTAS分野におけるトップレベルの国際学会と位置づけられている。今年度は、11日にレセプションが行われ、12日の朝から15日の午前中にかけては、招待研究者による公園と、応募者のうち上位数%の参加者による口頭発表、上位70%までの参加者によるポスター発表が行われた。また、12日の夜には学生交流会、14日の夜にはバンケットがあり、世界中から集まった研究者との交流を行うことができる機会となった。

研究発表

報告者は、「マイクロ微生物燃料電池に向けたマイクロファイバー電極」について研究しており、本会議では“CNT COVERED AND SHEWANELLA-LADEN HYDROGEL MICROFIBER FOR MINITIALIZED MICROBIAL FUEL CELL”というタイトルでポスター発表を行った。2時間に渡る発表の中で、アジア・ヨーロッパ・アメリカ等を含む多くの国々から集まった研究者らと、研究説明および質疑応答による活発な議論および交流を行うことができた。議論を通して、自身の研究の改善点や新たな着眼点を発見することができ、本会議への参加は大変意義のある時間となった。

おわりに

本会議では、自身の研究を深め、海外の研究者らの研究を広く知り、また研究者らと交流することができ、報告者にとって素晴らしい機会となった。このような機会をサポートしていただいた本海外渡航助成プログラムおよび関係者の方々に心からの感謝の意を表し本報告書の括りとする。

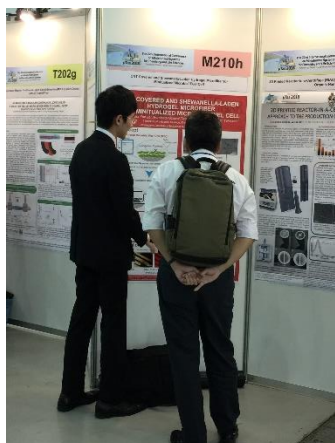


図1 本学会での報告者の発表の様子